

東京都立高等学校入学者選抜英語検査改善検討委員会（第2回）会議要旨

1 日時 平成29年8月30日（木） 午後4時から午後6時まで

2 会場 都庁第一本庁舎 25階 104会議室

3 欠席者 坂本委員

4 協議内容（意見要旨）

（1）英語検査改善の具体的方向性

（英語検査改善に向けた基本的な考え方）

- 学習指導要領で求められている4技能の評価を行うべきである。
- 入学者選抜の内容は、小・中学校における指導の充実に資するものとすべきである。
- 入学者選抜で求める力は、高等学校が教育活動を行う上での基本となる力であり、高等学校卒業時まで身に付けるべき力の基盤となるべきものである。

（実施に向けた課題）

- 出題内容の客観性及び妥当性を担保する。
- テスト実施におけるセキュリティを担保する。
- 受験機会等の公平性に配慮する。
- 採点・評価の信頼性を担保する。
- 中学校の教育課程に十分配慮したスケジュールで実施する。

（2）スピーキングテスト具体的検討事項

（問題作成の方向性）

- 問題は学習指導要領に準拠した内容で作成するべきである。

（テスト方法）

- 面接での実施の場合は、採点時間の確保、会場の確保、受験者の動き、セキュリティの担保等が課題となる。
- セキュリティを担保する上で、一斉に実施できるタブレット方式が望ましい。ただし、事前に十分シミュレーションを行う必要がある。

（実施回数及び時期）

- 受験機会の公平性を考えると実施回数は1回とするのが現実的ではないか。ただし、当日受験できない生徒のために、予備日を設定することが必要である。
- 実施時期については、受験生の進路選択への影響、中学校の教育課程への影響、私立高校入試との調整を踏まえて決定するべきである。

（受験対象者）

- 都立高校の受検者だけでなく、私立高校受験を希望する生徒等、希望者も含め対象としてはどうか。

（運営（会場、監督者等））

- 公平性が担保できる会場での実施を検討するべきである。一度に実施する必要があるため、一定数の教室が必要となる。

（運営（採点、評価方法））

- トレーニングを受けた採点者が、複数で行うことで信頼性を担保することができる。
- 評価項目の数を適切に設定することで、妥当性を担保することができるという調査結果が出ている。

（3）その他

- スピーキングテストを実施する意義はとても大きい。生徒や保護者に理解してもらえるよう周知すべきである。
- 試験結果の都立学校入学者選抜への活用方法について検討した方がよい。